ネット予約で46万冊増

20年度図書貸出741万2000冊

札幌市中央図書館・地区センター図書室

札幌市中央図書館は、二十年度の札幌市内図書館・地区センター図書室などにおける図書の貸出冊数をまとめた。貸出冊数の総計は七百四十一万二千十一冊。十九年度よりも四十五万八千四百三十七冊増加した。中央図書館では「インターネット予約が昨年の八月から始まったことによって、貸出冊数の増加につながった」と分析している。

札幌市教委は十四年に「札幌市図書館ビジョン」を策定。以来、ビジョンに基づいた施策を展開しており、十八年度に札幌市内の図書館・地区センター図書室等の開館時間を拡大。休館日を減らし、夜間時間帯を開放することなどで施設の利用促進を図った。

市内中心部の図書サービスを向上するため、地下鉄大通駅南北線コンコースに「中央図書館大通カウンター」を開設するなど様々な施策を講じてきた。また、昨年八月からインターネットによる予約を開始。利便性の向上に努めた。

その結果、十八年度から利用者が急増。十七年度と比べ十八年度は三〇・三％増の六百九十三万六千四百三十二冊。十九年度は六百九十五万三千五百七十四冊となった。

二十年度の貸出冊数の総計は七百四十一万二千十一冊。十九年度よりも四十五万八千四百三十七冊増加した。

種別にみると、中央図書館・大通カウンターでの貸出は百三十万九千四百二冊。うち、大通カウンターの利用は十一万二千九百二十七冊で、十九年度と比べ倍増した。

地区図書館は二百七十四万七千百四十五冊で、十九年度よりも約十五万冊の増。地区センター図書室は二百三十六万三千百二十六冊で、同じく十八万冊の増。区民センター図書室は九十一万三千九百八十二冊で九万冊の増。その他図書コーナー・団体貸出などが七百八十三万五千六百冊となっている。

中央図書館では「三月に利用者開放の検索機を導入し、八月にインターネット予約を導入した。五ヵ月間で利用者が操作に慣れることができ、インターネット予約がすんなり導入できた。施設や仕組みは、ひとつとおりつくり上げることができたので、今後はシステムの充実を図りたい」と話している。

貸事務所、貸店舗

第一、第二道通ビル。札幌駅より徒歩三分。道庁に至近。冷暖房、立体駐車場、地下に飲食店街があります。

地下貸飲食店舗、一階貸店舗、三階以上貸事務所。委細面談。

札幌市中央区北五条西六丁目

北海道通信ビル株式会社

電話（〇一一）222－三三一六番

「〝創造教育〟が必要に」

第3回特別支援教育情報教育研修会

札幌市立大　武田准教授が話題提供

十日に札幌コンベンションセンターで開催された道特別支援教育ICT活用プロジェクトの第三回特別支援教育における情報教育研修会・実技研修会では、札幌市立大学の武田亘明准教授が「情報創造教育―クリエイティブ市民の育成教育」と題して話題提供した。これからの社会では、ネットワーク形成力などが大切になることを指摘。〝創造教育〟が必要となることを説明し、子どもたちへの教育として連携した取組を呼びかけた

◇

「特別支援教育における情報教育」をテーマに、特別支援学校関係者や情報教育関係者、企業関係者四人が話題提供。うち、武田准教授は、「情報創造教育―クリエイティブ市民の育成教育」と題して話を進めた。

武田准教授は、「クリエイティブ市民とは何か」と問いかけ、「創意工夫で暮らしを良くし、あらゆる層の人があらゆる仕事の中で社会を良くするため、発言し参加し実行していることである」と説明。「まず、その基本部分を伝えたかった。その中で〝怒らない〟〝姑まない〟〝愚痴らない〟ということの大切さも覚えていてほしい」と呼びかけた。

そのあと、能力についての見解として「近代型能力は基礎学力であった。つまり知識量や知的操作の速度など、一人の努力で達成できるものだった。だが、これからの時代は、ポスト近代型能力という多様性や個性、ネットワーク形成力が大切となっている。人の中で身に付く開かれた努力となる〝生きる力〟が大事になってきている」と説明した。

情報社会に生きる市民の情報に関する能力として、①情報受信能力②情報処理能力③情報活用能力④情報生成能力⑤情報発信能力⑥情報交換能力―の六点を提示するとともに、七点目として、自身が考えた「情報協働能力」を挙げ、「何か伝えたいという目的がなくては何も始まらない。ここで〝創造教育〟が必要となる」と指摘した。

最後に、メディアの危険性について言及。「学校だけでも、家庭だけでも、子どもをメディアから守ることは困難。あらゆる機関が情報を共有することが大切」と、連携した取組の必要性を示した。

〝とっさの救急法〟習得

札幌市教育センターが研修会

AEDによる心肺蘇生等

札幌市教育センターは十一日、札幌市内ちえりあで安全教育「とっさの救急法」の研修を実施した＝写真＝。市内の小・中学校、養護教諭など三十三人が参加。札幌市防災協会から講師を招いて心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動機）の使用方法などを学んだ。

札幌市立学校には全校にAEDが設置されており、緊急時には職員等の救急対応が必要不可欠。子どもたちの活動が活発になる夏季を迎え、今後は多くの学校行事も控えていることから、けがなどで救急・応急処置が必要なときに「人の命を助ける技術」を学ぶことを目的に今回の研修を実施した。

研修では、はじめに講師を代表して札幌市防災協会の杉本芳久主任があいさつ。「事故や病気の人がそばにいるとき、その人の命を救うことや苦痛を和らげることが救急」と救急の概念を説明。

札幌市では、救急車が年間七万件出動しており、そのうち一千三百件で患者が心肺停止状態であることにふれ、「札幌市の救急車の平均到着時間は約六分。その六分間は人の命を助ける上で非常に重要」と救急車が到達するまでの間の対応の重要性を解説した。

続けて、直接圧迫止血法や喉にものが詰まった際の対処方法について人形を使って説明を受けたほか、心肺停止状態について、人工呼吸や胸骨圧迫、AEDの使用と合わせた実施方法を学んだ。参加者は、最後に普通救命講習修了証を受け取り、各学校で救急時や日常において今回の研修成果を生かすことを誓った。

札幌市内教育関係8施設の体験教室日程

札幌市内八ヵ所の教育関係施設における八月末までの児童・生徒を対象とした体験教室日程がまとまった。うち、青少年科学館では「サイエンジャーと星空探検隊」と題して、通常は実施していないプラネタリウムの夜間特別投影を二十二日に実施する。

体験教室の日程はつぎのとおり（①概要②開催日）。

◇

▼青少年科学館

▽小中学生の夏休み工作会＝①大声かいじゅうガー君（小学一年生以上）バランスシーソーゲーム（小学四年生以上）②13～18日まで

▽天体観望会＝①木星・夏の大三角形・ペガスス座②22日

▽サイエンジャーと星空探検団＝①プラネタリウム夜間特別投影（中学生以下保護者同伴）②22日

▽科学戦隊サイエンジャーⅣ―かんかくのふしぎ＝①人間の五感を利用した体験展示イベント②23日まで

▼札幌芸術の森

▽ふらっとはんが体験＝①ドライポイントを使ったポストカードづくり（小学生以上）②13～16日、19日、20日、26日、27日

▽藍染め体験＝①Tシャツ、バンダナ、日本手ぬぐい等に簡単な藍染を行う②14日、15日

▽七宝焼でキーホルダーをつろう＝①七宝焼で手づくりのカラフルキーホルダーづくり②15日

▽ガラス・サンドブラスト体験＝①タンブラーに模様をつけ、オリジナルグラスをつくる②14日

▽電動ロクロを回して器をつくろう＝①電動ロクロを使った器づくり②14日、15日

▽「平和のちかい」読み聞かせ＝①紙芝居「平和のちかい」の読み聞かせ活動②16日

▼水道記念館

▽読み聞かせ会＝①水道記念館内の「水の図書館」でボランティアによる読み聞かせ（幼児・低学年児童）②15日

▼下水道科学館

▽「青少年のための科学の祭典」札幌北大会＝①科学のおもしろさ、不思議を体験学習②30日

▼豊平川さけ科学館

▽土曜体験＝①サケたちの無料エサやり体験②15日、22日

▼埋蔵物文化財センター

▽21年度遺跡見学会＝①札幌市北区のK518遺跡を見学②29日

▼札幌教育センター

▽ちえりあフェスティバル2009＝①子ども映画会、野外ステージなど親子で楽しめるイベントが多数②22日、23日

▼円山動物園

▽子育てサロンin円山ZOO＝①カフェ、手づくり教室、キッズ向けプログラムなど②27日

子ども議会議員とサポーターを募集

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課は、札幌市子ども議会の議員とその活動を手助けするサポーターを募集している。応募対象は、議員は市内に居住し学校に通学する小学校五年生から高校三年生までの児童生徒七十人。サポーターは原則として市内・近郊の短大や大学等に通学する十八歳以上の学生十四人。

子ども議会は、子どもたちの市政への関心を促進しようと、テーマによってグループ分けした委員会七回程度と本会議一回の議員活動を行う。任期は十月上旬から二十二年一月上旬までとなっている。

応募方法はいずれもハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、学校名・学年を記入し、議員は九月十四日、サポーターは二十八日までに同課（〒〇六〇―〇〇五一　中央区南一条東一丁目大通バスセンタービル一号館三階）へ送付。ファックス（〇一一―二一一―二九四三）やEメール（kodomo.kenri@city.sapporo.jp）でも受け付けている。